

豊かできれいな海を守り育てよう!

海洋ごみアクション・フォーラム「ひとりの海 足元から地球へ」

海の大切さを理解し、海洋ごみを減らすための具体的な行動を呼びかける「海洋ごみアクション・フォーラム」が2月5日、富山市のボルファートとやまで開かれました。富山県と環日本海環境協力センター(NPEC)が主催。

「環日本海・環境サポーター」に登録する企業・団体の事例発表や児童による活動宣言、東京海洋大客員准教授のさかなクンのトークショーなどが行われ、参加した約450人が一人ひとりの取り組みの大切さを実感し、「ごみのポイ捨てをしない」など海洋ごみを減らしていくことを誓いました。

アクション5を宣言

NPECの鈴木基之理事長がサポーター団体代表のアサヒビールと魚津漁協に記念品を贈呈した後、「子どもサポーター」として海辺の漂着物調査などの活動をしている氷見市窪小、高岡市太田小、射水市東明小、朝日町さみさと小の児童ら合わせて12人が、「環日本海・環境サポーターアクション5」を宣言しました。児童らは「みんなできれいな海づくりに取り組みよう」と会場の参加者呼びかけ、石井知事に宣言パネルを渡しました。



▲「環日本海・環境サポーターアクション5」を宣言する児童たち

活動発表

2009年春から「うまい!」を明日へ「プロジェクト」をキャッチフレーズに、富山県内で販売した「アサヒスーパードライ」対象商品1本につき1円を県などに寄付しており、これまでに総額2062万円に達しています。この寄付金は、昨年7月に黒部市の海岸で行われた清掃活動「みんなできれいな海」に活用されています。

環日本海・環境サポーターの一人として、今後とも富山湾の環境を守る活動に貢献していきたいと思っております。



▲黒部市の海岸で行われた「みんなできれいな海」の清掃活動

富山湾の海洋環境保全活動への支援

アサヒビールは「自然の恵みを明日へ」をテーマに、環境への取り組みとしてCO₂を減らす取り組みとして、自然の恵みを守る「うまい!」の取り組みを進めています。

松野 研介氏

豊かな海づくりをめざして

「磯焼け」と呼ばれる藻場の衰退が全国的な問題となっており、魚津市でも海産物の減少が進行してきています。魚津漁協では2009年から、魚津港から経田漁港までの海岸において藻場回復のための事業に取り組みしてきました。モニタリング調査によって実態把握を行い、10年に海藻種苗を取り付けた養生ブロックの設置や、藻場を食い荒らすウニの駆除を実施しました。詳細な潜水調査で海藻が着実に成長していることが分かりました。さらにアマモの苗を移植して、その後の成長を見守っています。

浜住 博之氏



▲海藻を守るためのウニの駆除作業

環日本海環境協力センターによる海洋環境保全の取り組み

NPECは、1996年から海岸に流れ着くごみの調査を実施しています。現在では中国、韓国、ロシアとともに共通手法での調査を実施し、国連環境計画のプロジェクトとして海洋ごみの監視を行っています。

また、環境教育活動として、北東アジア地域環境体験プログラムを08年から実施しています。これまでに日中韓の中高生約200名が参加し、活動発表や環境保全活動の体験を行っています。来年度は富山県での開催を予定しています。

寺内 元基氏



▲NPECによる大震災の被害状況調査



富山県知事 石井 隆一

富山県は、3千メートル級の立山連峰から水深1千メートルの富山湾まで、高低差4千メートルのダイナミックな地形を有し、美しく豊かな自然に恵まれています。

なかでも、キトキトの魚、海洋深層水など、富山湾から計り知れない恩恵を受けており、こうした恵みの海を守り次代に受け継いでいくことは、今を生きる私たちの責務であります。

このため、県では、富山湾の水質保全対策、環日本海



環日本海環境協力センター(NPEC)理事長 鈴木 基之

海・環境サポーター事業の育成などを進めるとともに、財団法人環日本海環境協力センターと連携して、国連環境計画が主導する日本海等の海洋環境計画の推進、日本海の海洋ごみ対策などに積極的に取り組んでいるところです。

大切な海を守り、かけがえのない財産として未来に引き継いでいくためには、県民の皆さん一人ひとりのご理解とご協力が必要不可欠です。

今後とも、県民の皆さんと力を合わせて、富山湾や環日本海地域の環境対策をより一層推進してまいりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

あいさつ

このたび、ボルファートとやまにおいて、大変多くの皆様にご参加いただき、「海洋ごみアクション・フォーラム」を盛大に開催することができ、誠に喜ばしいと感じております。

さて、私たちに豊かな恵みをもたらしてくれている日本海は、陸地に囲まれた閉鎖性が高い水域であり、汚染物質の蓄積や海洋ごみの漂着など解決すべき問題をかかえています。

このため、NPECでは、沿岸地域の自治体等と連携して、様々な国際環境協力事業を展開するとともに、国連、日本政府及び関係団体と連携し、各種海洋環境保全事業を推進しています。

今回、富山県との共催により、海の大切さを多くの方々に知っていただく機会を設けることができました。これを機会に、より一層海を守るための具体的な行動に取り組みたいと思います。よろしくお願いいたします。

さかなクン トークショー

トレードマークのフクの帽子に白衣姿のさかなクンが、魚の魅力や海洋環境保全の大切さについて分かりやすく伝えました。プリ、ウマツラハギ、サクラムスなど富山湾で獲れる代表的な魚を取り上げ、得意の絵を素早く描きながら魚の見分け方やその生態について楽しく説明し、会場を盛り上げました。

最後に、日本の海がごみや廃水で汚れている現状を伝え、「魚たちを守るためには、川や海を汚さないことが大切です。そのためにも、食べ残しをせず、感謝して食べ、物を大事に使いましょう」と会場の参加者へ呼びかけました。



NPECの取り組み

財団法人環日本海環境協力センター(NPEC:エヌベック)では、これまで蓄積してきた経験やノウハウを活用し、環日本海地域の環境保全に貢献する取り組みを進めています。

人工衛星活用し、海洋環境監視

例えば、人工衛星による海洋環境モニタリング技術を活用し、①県民への海水浴場の水温情報の提供、②研究者への基礎データの提供、③東日本大震災の復興支援などを行っています。

また、海洋ごみ対策については、当初、日本の10自治体の連携・協力により開始した漂着物調査が、現在では、日本、中国、韓国、ロシアの4か国に拡大しており、環日本海地域の市民の海を守る心の醸成に貢献しています。さらにこうした取り組みは、4か国が参加して環日本海地域の海洋環境保全を推進する北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP:ナウパップ)の海洋ごみ活動へと発展しています。

NPECではこれからも、環日本海地域の豊かな環境を守り、将来に受け継いでいくために、各種海洋環境保全事業に積極的に取り組んでまいります。

環日本海・環境サポーター

身近なところから、できることから行動しよう!

私たちの海は、世界中の海とつながっており、身近な富山の海から豊かできれいに守り育てていくことが、環日本海地域の環境保全につながります。

まずは、足元から行動を起こし、一人ひとりが、海洋ごみを減らす取り組みを進めながら、海の生き物のための環境づくり、豊かな海を育む森づくりなどにも取り組んでいくことが大切です。

このため、富山県とNPECでは、こうした取り組みを行う人たちに「環日本海・環境サポーター」として募集・登録し、その活動を応援するサポーター制度を昨年6月から開始しました。

現在、サポーターには、企業、団体、NPO、学校等の子どもから大人まで約1300名の方に登録いただいております。県内各地で海岸や地域の清掃活動、海辺の漂着物調査、藻場の再生活動、植林活動などの取り組みが行われています。

今後とも、NPECでは、環境関連情報の提供、出前講座等の開催、サポーターの皆さんの活動PR等の活動支援を通じて、サポーター活動の拡大、充実を推進していきます。

サポーター募集!!

サポーター登録は、NPECホームページでダウンロードした「登録情報」フォームに必要事項を記載の上、メールまたはファックスで送付してください。

詳しくは、こちら → [環日本海・環境サポーター](#) 検索

お問い合わせ / 環日本海環境協力センター(NPEC) 企画交流課
TEL.076-445-1571 FAX.076-445-1581 電子メール:supporter@npec.or.jp

環日本海・環境サポーター アクション5

- ①ポイ捨て、投げ捨てしない。ごみの投棄のない社会にしよう。
- ②河川、海岸や身近な場所をきれいにしよう。
- ③清掃活動、海洋ごみに関する調査や学習の機会に参加し、海洋ごみ問題の解決のためにみんなで考えよう。
- ④海の生き物のための海辺環境を守り育てよう。
- ⑤豊かな海を育む森を守り育てよう。